

「女の子を育てる」その2

クリスチャンホーム を築く

ジヨナサン・ベネディクト

今年5月、長男(26)が結婚することになり、みな大喜びで準備中です。長女(28)は6年前に嫁ぎましたが、まだ下に娘が5人おり、それぞれ24、20、17、13そして11歳です。

インドでは、結婚持参金のために富を蓄えるか借金せねばならないので、娘を沢山持つ男は災難だと言われました。しかし、今の日本のクリスチャンにとって、問題はお金ではなく男性不足です。我が家は日本にあり、娘たちも基本的にここに落ち着いていますので、選択肢は少ないのです。

私たちは「未信者とつり合わぬくびきをつけない」という聖書(第二コリント6章14〜18節)の教えに従って、伴侶を選ぶにはクリスチャンであることが第一の優先事項だと教えてきました。しかし、これを守るのは易しいことではありません。なぜなら、教会にいる男性は女性の約半分であり、多くの女性には信者の伴侶を得るといふ選択肢がなくなるからで

す。

クリスチャン結婚相談センター「ペテロの涙」の代表の下川明美さんによれば、教会に出席する信者と結婚の可能性のある独身者を数えると、確率は千人に一人の日本人しかしないことになりました。もちろん、これは昨日今日生まれた問題ではなく、独身女性のために男性たちを捜そうとする牧師は沢山います。

妥協して未信者と結婚した方々もおられますが、今回私は、結婚の意味、霊的な一致、クリスチャンホームを築く意義、そして女性たちがクリスチャンの男性に出会い結婚するために私たちにできることは何かを書いてみます。

●結婚はキリストと教会を表す

幸いなことに、聖書は結婚の深い意味、また従うべきすばらしい模範について語っています。

エペソ5章によれば、結婚はキリストと教会を表します。これが模範です。キリストが夫の模範で、教会は妻の模範です。言い換えると、人間の結婚は、キリストとの霊的な結婚を表します。

ローマ7章4節によると、私たちは神のために実を結ぶためにキリストにつながるのです。私たち信者が結婚相手を選ぶのは、この理解によります。地上での私たちの結婚は、その原型である天国の

霊的な結婚を反映すべきです。それで、私たちの伴侶を選ぶ際に、天国の模範に倣うようにするのがいいです。

●霊的な一致が大切

結婚生活が成功するには、夫婦の最も深いレベルでの一致が必要です。

残念なことに、多くの人は魅力的な性格、服装やスタイル、頭の良さ、恋愛感情など表面的なものばかりを見て、1年後3年後10年後のふたりの関係までは見通せません。今のところこれでいいと感じていて、ぽーっとなっているのですべてをその感覚、その角度で見ているだけです。

しかし、経験者なら分かることですが、一旦結婚したら、恋愛感情はすぐに色あせ、相手の弱点、癖、悪習慣が鼻につき始めます。相手と四六時中一緒にいたら、水面下にあるものがすぐに見え始め、価値観、人生観、生きる目的も分かります。

その時に、信仰者レベルでの一致がものを言います。ふたりとも信者でいて初めて、もっとも深いレベルで一致できます。ですから、コリント第一7章39節で、やもめが再婚するのは「ただ主にあつてのみ」、つまりクリスチャンに限る、というのです。

また、よく引用されるコリント第二6章14〜18節では、「不信者と、つり合わ

ぬくびきをいっしょにつけてはいけません」と、夫婦の不一致について警告します。それだけではありません。不信者と結婚するという可能性を考えることさえもないように、非常に強い調子の5つの質問をします。

「正義と不法とに、どんなつながりがあるでしょう。光と暗やみに、どんな交わりがあるでしょう。キリストとベリアルとに、何の調和があるでしょう。信者と不信者に、何のかわりがあるでしょう。神の宮と偶像とに、何の一致があるでしょう」

それから3つの決定的な命令があります。「彼らの中から出て行き」「彼らと分離せよ」「汚れたものに触れないようにせよ」

不信者との結婚について、神さまはここで何を言っておられるのか、説明はこれ以上不要でしょう。

●クリスチャンホームのすばらしさ

右の警告には、クリスチャンホームのすばらしさのヒントも含まれます。言い換えると、未信者の夫婦が味わえないことからこそ、クリスチャン夫婦が味わえることなのです。(以下略)